

## 作文コンクール 優秀賞作品「夢へのバトン」

大阪府立北千里高等学校 1年 武田ゆずさん

私には叶えたい夢がある。将来、教師になることだ。その夢への希望の道は、中学校で出会った先生方と、まるちゃんノートによりはっきりと目の前にあらわれた。

「まるちゃんノート」とは、自学自習ノートの名前である。名付け親は先生達だ。喜びや不安が入り混じった何とも言えない気持ちで、中学校の扉を開けたことを今でも鮮明に覚えている。そんな時、まるちゃんノートの説明があり取り組むことになった。毎日の家庭学習がいかにか大切か。そして与えられた課題ではなく自ら何を学ぶかを考えて欲しい。「何をやってもまる、自分で考えよう、未来を切り開くために。」そんな思いが込められた「まるちゃんノート」が誕生した。

「かわいい名前やなあ」と思いながら、私のまるちゃんの表紙がめくられた。今思えば、最初は宿題の一つとして取り組んでいた。毎朝提出し下校時には先生のメッセージつきで私のもとに返ってきた。ほめられるのが嬉しくて休まず継続していくと、私とまるちゃんに変化が表れた。自学自習の定着と共に、疑問や気づきが多くなり深く考えるようになり、学習への意欲も変化した。私と比例するように、まるちゃんノートの中には、工夫され充実したものに進化した。小さな喜びや達成感は積み上がり自己肯定感が育っていった。学習面だけでなく、クラブ活動や委員会活動にも精一杯励み、様々な検定試験にもチャレンジした。まるちゃんが背中を押したのだ。

季節が一巡し二年になった春、私が最も尊敬している先生との出会いがあった。正直、第一印象は良くなかった。しかし先生の授業を受けていくうちに、信頼という感情が生まれた。とにかく授業は楽しく分かりやすい。一日中、教わり学びたいと願ったほどだ。先生との距離が縮まると、先生の温かさに気付かされた。いつも笑顔で誰に対しても公平であり、押しついたり放任することなく生徒を見守る姿があった。そして新しいことに、チャレンジされている姿から、希望や勇気を受け取った。いつしか私には、先生のような教師になりたいという気持ちが芽生え、大きくなり揺るがない夢となった。

私にとって憧れの先生で最高の先生だ。

今でも時折、母校を訪れることがある。

まるちゃんノートの提出と、先生の笑顔に会いたくて。先生の笑顔を見ると安心できるし頑張ろうと思える。私の手元には八十冊以上のまるちゃんノートがある。これからも増え続けるだろう。

私は先生から受け取ったバトンを次に繋げたい。先生の笑顔と温かさは、心の栄養剤である。心が満たされると夢や希望に向かって進んでいける。私が経験したことだ。

私は教師になる夢を叶えるために、希望の道を歩いていく。